

図書室からのお知らせ～10月～

10月号は7月に亡くなった「東野圭吾」を特集したいと思います。
皆さんもよくご存じの人気作家です。亡くなってすぐに新刊ガリレオシリーズ「永遠の記憶」が出版され話題になりました。また、映画『白鳥とコウモリ』が公開されており、WOWOWでも『虚ろな十字架』が、放送されています。

光明学園の図書室でも 現在活躍中の作家の中で一番多くの作品を所蔵しているのが「東野圭吾」です。
出版作品は、ほぼ揃っています。また新刊書等は、現在注文中です。



東野 圭吾



経 歴:

1958 年大阪市生まれ 大阪府立大学 工学部電気工学科卒業
1985 年『放課後』で江戸川乱歩賞
1999 年『秘密』で日本推理作家協会賞
2006 年『容疑者Xの献身』で直木賞 その他多数の受賞歴あり
2026 年7月23日 大腸がんのため68歳で死去
(訃報はアジアを中心とする海外の報道機関でも速報として伝えられた)

代表作: 『秘密』『白夜行』『容疑者Xの献身』『流星の絆』
『ナミヤ雑貨店の奇蹟』『祈りの幕が下りる時』

今回は「東野圭吾特集」としました。

生徒も本は読んでいなくても『ガリレオ』や『マスカレード・ホテル』は知っている人が多かったようです。
彼の作品は「ミステリー・サスペンス」となっていますが脳移植、遺伝子、ジェンダー、多重人格と内容は多岐にわたります。彼が工学部電気工学科卒業のエンジニアとして働いたこともあるので理系の要素がふんだんに盛り込まれている作品も多くあります。また、絵本の出版やアニメ作品もあります。

そんな多種多様な作品の中でも私がお薦めしたいのは『赤い指』です。

彼の作品としては至って「シンプル」です。

親子三世代同居家族の話です。ある日、「孫」が人を殺してしまいます。

祖母は「孫のため」と思い、「認知症」のふりをして殺人犯となります。

しかし、祖母の指先には「赤い口紅」がかすかに残っていました。

だから、祖母は犯人ではなく「孫」を守り切れなかったのです。

その結末は涙を誘います。難しいトリックも何もありません。

私はこの作品が「東野圭吾」という人間味を表している様に思えます。

そして、私が次回、読みたいのは『サンタのおばさん』です。

表紙の絵がとても可愛くジェンダーの内容が気になっています。



赤い指 著:東野圭吾 講談社
サンタのおばさん 著:東野圭吾 文藝春秋

図書委員によるお薦めの東野作品

◆世界で一番の小説家は東野圭吾◆

私が彼を好きな理由は結末の爽快感と独創的な世界観です。彼の作品を色々読んできました。ドラマ化や映画化も沢山あります。その中でも私が1番好きな作品で面白いと思うのは「プラチナ・データ」です。DNA を使って犯人を特定できるシステムを「プラチナ・データ」と呼びます。近未来の日本の様子が描かれています。犯人が二重人格で「自分が犯人なのか」という思いになっていきます。小説を読んだ後に映画を観ることもお薦めします。

彼の作品はただ事件を解決するのではなく人々の感情や家族との関係を深く考えさせられます。こういう所が東野圭吾にしか書けない作品だと思います。皆さんも是非一度、彼の作品を読んでみることをお薦めします。 2年生

◆手紙◆

東野圭吾の「手紙」は兄が強盗殺人を犯したことで弟の人生まで大きく変わってしまう物語です。主人公の直貴は兄の犯罪によって周囲から差別や偏見を受け夢や恋愛にも悩み苦しみます。犯罪を犯した本人だけでなくその家族まで社会からどのような目で見られるのかが描かれています。読み進めるうちに「罪を償うとはどういうことなのか」「家族とは何なのか」を深く考えさせられる作品です。ぜひ読んでみてください。 2年生

◆クスノキの番人◆

「その木に祈れば願いが叶う」

あなたはこの言い伝えを信じますか？人生に行き詰まった玲斗はあることがきっかけに「クスノキの番人」になります。そこへ訪れるのはさまざまな願いを抱えた人々でした。玲斗は彼らとの出会いを通してクスノキに隠された秘密へと迫っていきます。

果たして願いの先に待っているものとは・・・？

人々の想いや家族の繋がりが描かれた心温まる物語です。そして今作は東野圭吾さんの作品として初のアニメーション映画化もされています。続編のシリーズも出ているので気になった方はぜひ図書室に足を運んでみてください。 3年生

◆沈黙のパレード◆

この小説は福山雅治が主演を務めた映画になり一時期ニュースにも取り上げられてとても人気が高い作品です。 1年生

◆マスカレード・ホテル◆

映画では木村拓哉 長澤まさみなどが出て小説も面白かったです。

◆麒麟の翼◆

阿部寛が出ている素敵な映画で気になったので、みんなに観てもらい本も読んでもらいたいです。 1年生

